

アイディアが土地を活かす

高松建設

TakaMori

高松建設 検索

0120-53-8101

平成27年(2015) 日刊25926号

2|23 [月]

産経新聞(サンケイ)

THE SANKEI SHIMBUN

発行所 産経新聞東京本社2015
〒100-8677東京都千代田区大塚1-7-2
電話番号:03-3231-7111 (大代表)

産経新聞

朝の詩

言葉を計る

神奈川県鎌倉市
伊藤 是孝 79

あとで思う
さっさの言葉は
軽すぎなかったかと
言葉を計る

体重は
重すぎではないけないが
言葉は断じて
軽すぎではないけません
自分の身を計るように
言葉の重みを
日々計ってゆこう

(選者 新川和江)

BANTOU 番頭の時代

第2部 「飛躍」を生み出す

若い会社の健全化に奔走

「コーポレート本部副部長を命ずる」

平成24年4月、東京・六本木にあるソーシャルゲーム大手グリーの本社。当時40歳だった秋山仁(43)は、渡されたばかりの辞令を見つめながら、「大役」が回ってきたことに気持ちが高ぶった。

「ガチャに10万円つき込んだ」「こっちは2カ月間で46万円」

当時、「コンプリートガチャ(コンプガチャ)」と呼ばれるソーシャルゲーム各社の大きな収益源だった課金法が、社会問題になりつつあった。子供が希少アイテムを獲得するため、多額のお金を使ってしまつて世間の批判的になっていった。

秋山に託されたのは、この

其の五▶▶▶ グリー 秋山仁取締役

グリーの歩み

平成16年	2月	楽天に勤務していた田中良和氏が、個人的に開発したSNS「GREE」を一般公開
	12月	田中氏、楽天を退社後にグリー設立
	17日	他社に先がけ、携帯向けSNSを提供開始
	19日	世界初の携帯向けソーシャルゲーム「釣り★スタ」を公開
	20日	東証マザーズ上場
	22日	東証1部上場
	8月	スマホ向け「GREE」リリース
	23日	初の海外拠点グリーインターナショナルを米国に設立
	24日	初の世界用となる携帯向けソーシャルゲーム「Zombie Jombie」公開
	7月	ソーシャルゲーム「探検ドリランド」をTVアニメ化
	26日	新設したゲーム開発スタジオから初タイトル「消滅都市」を提供開始



▲田中良和会長兼社長(右)と秋山仁取締役

コンプガチャ問題について、法務関係の指導をするところだった。前職の証券会社では、契約書の作成などをめぐる、常に弁護士とやり取りしていたため、法律には詳しい。

「われわれはどうか意識を変えなきゃいけないのか。社会問題に発展したコンプガチャ問題について弁護士、有識者らを集めて、連日深夜、議論を重ね、DENAなど同業者

と話し合いを繰り返した。こうした取り組みは、ガチャ撤廃を盛り込んだ会社の内規や、業界6社によるガイドライン作成などにつながる。

「グリーとしては、消費者に喜ばれるなら何でも提供したい思いがあった。けれど社会にどんな影響があるか、思いをさせる感覚が低かった。ガチャについて、秋山はこう振り返る。売上高1千億円を超える大企業に急成長したものの、考え方はベンチャーのままだった。

社会的責任を軽視したツケは重く、収益を依存していたガチャの廃止は、今に至る業種低迷の要因の一つとなつていく。同じような過ちを繰り返してはいけない。取締

役執行役員常務管理統括本部長として人事、財務、法務など間接部門の責任者となつた今、グリーを健全な大企業にいかに着て上げるか。それが「番頭」としての役割と秋山は認識している。

秋山は大学卒業後、三菱商事を経て、約10年間メリルリンチ日本証券でM&A(企業合併・買収)を担当した。チームは門外漢だったが、メリリンチからグリーに転職した後輩から「若い会社でやりがいがある。何より毎日が楽しい」と聞き、興味を持った。23年9月、グリー本社。

「いい製品を作れば、自然に世界へ広がってくれと思うんですよ」

初めて会った創業者の田中

良和(38)は秋山にこう語りかけた。世界中に楽しくいいものを提供したいという5歳年下の田中の「夢」に、忘れていたビジネスの原点をみた思いがした。1時間後、本社を後にしたときは「ぜひ入社して田中さんを支えたい」との思いでいっばいになっていた。

「秋山さんは、良い成果を出そうとする意欲が高く、会社を再成長の軌道に乗せる上で欠かせない人材だ」。田中はこう話す。

社外取締役を除くと、秋山は取締役の中では43歳ながら最年長だ。「若い会社の良いところを伸ばしながら、悪い芽を摘む。新しい産業のソーシャルゲーム業界はこれができたところが生き残る」。昨年創業10周年を迎えたグリー。秋山の目は次の10年をどう支えていくかにすでに移っている。(敬称略)

3面に続く

BANTOU 番頭の時代

1面から続く

入社してまもない平成23年12月、秋山「(現グリー取締役)は米国にいた幹部に一本の電話を入れた。

「今度日本に帰ってこられるとき、うちのチームのメンバーと食事してもらえませんか」

相手はグリーCFO(最高財務責任者)で、米子会社CEO(最高経営責任者)も兼ねていた青柳直樹(35)だ。

「新風」ともいえる働きかけで、その後ほかの幹部も現場とのコミニケーションを心がけるようになっていく。

自分の経験に照らし、グリーに不足し改善したほうがいいと思うことは、ズバズバ直言し実行する。それが秋山の真骨頂。創業者で会長社長長の田中良和は「常に社員のことを思いやり、会社をより良くしようという姿勢に助けられる」と全幅の信頼を寄せる。

嫌われ役承知で

「あまりの急成長に『器』や、考え方が追いついていない」。入社後すぐに秋山はこう感じた。三菱商事、メリルリンチ日本証券で場数を踏んできた秋山から見れば

永続的な成長へ「器作り」

当時秋山は投資チームの「マネジャー」にすぎない。しかし部下や同僚から「最近、幹部と話す機会がないんです」とこぼされ、いても立ってもいられなくなった。

創業してわずか数年で、従業員1千人規模まで急成長したグリー。まだ200人ぐらいのころは、社内でも顔と名前が一致し、気軽に声をかけられる雰囲気があった。だが、人数が多くなると幹部が「偉い存在、遠い存在」になっていた。

秋山は、現場と経営陣とのコミュニケーションが不足すれば、正確な経営判断ができなくなることを経験上知っていた。まもなく青柳と現場の会食は実現。秋山の

「非常識」なところが多々目撃された。例えば連絡の取り方。IT企業ならではの、社員同士はネットのチャットを頻りに使う。「時に電話をかけた直接会った方が言葉が伝わりやすい」と秋山は、電話をかけた後、話が終わると「器作り」を承知して部下にこんなアドバイスをしていった。

「企業としての投資行動もそうだが、秋山の常識では、企業が大きくなれば、投資を検討するときには、『そもそも銀行から借金をしているのか』から考える。ここ1、2年で使える金額を絞り込み、さっさとの中からどれくらいのお金を使っているのか。通常、こうした手順を思いが詰まっている。(敬称略)

下支えあればこそ

グリーは、いま過渡期の最中にあり、2月4日に発表した平成26年7～12月期決算は、半期として上場後初の最終赤字に転落した。アプリをダウンロードして乗しむスマートフォン向けゲームで

「ルール」を作る側に回れ

番頭の敷え

ベンチャー企業の成長過程で、2つのルール作りが必要となる。ひとつはビジネスのルールをつくること。もうひとつは企業運営のルールをつくること。成長企業の「BANTOU」は、ルールを守る側ではなく、作る側に立たな(ヒススクロー代表 杉村知哉)

この連載は田村龍彦、宇野貴文、田端素央、高橋寛次、山口暢彦が担当しました。